

2019年度就職・採用活動に関する調査(大学等)

速報版(概要)

2019年10月30日

調 査 概 要

調査目的

就職・採用活動の状況を把握し、今後の就職・採用活動の円滑な実施の検討に資する。

調査主体

文部科学省（就職問題懇談会と協力して実施。）

実施方法

対象：全国の大学、短期大学、高等専門学校 合計 1,177 校

方法：調査票の送付

期間：2019年7月12日(金)～8月7日(水)

8月1日現在の状況を回答

回答率

発送数：1,177 件

有効回答件数：1,106 件

回答率：94.0%

【内訳】

国立大学	98.8%	公立大学	97.8%	私立大学	97.1%
公立短期大学	94.1%	私立短期大学	84.6%		
国立高専	98.0%	公立高専	100.0%	私立高専	100.0%

属性

学校種別

調査数	国立大学	公立大学	私立大学	公立短期大学	私立短期大学	国立高専	公立高専	私立高専
1,106	85	91	595	16	263	50	3	3
100.0%	7.7%	8.2%	53.8%	1.4%	23.8%	4.5%	0.3%	0.3%

地域

調査数	北海道・東北	関東(東京以外)	東京	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1,106	129	168	173	196	210	110	120
100.0%	11.7%	15.2%	15.6%	17.7%	19.0%	9.9%	10.8%

(注)この「速報版」における「大学等」とは、大学、短期大学及び高等専門学校である。

就職問題懇談会の「申合せ」の内容の周知状況等

< 周知状況 >

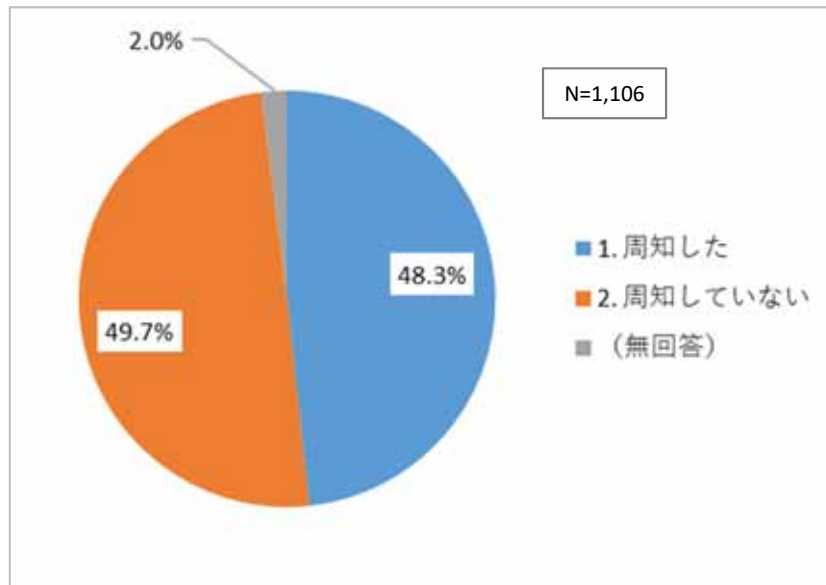
「周知した」 48.3% (前年度比 ▲ 1.1ポイント)

< 周知しなかった理由 >

「既に就職問題懇談会や政府から企業へ周知を行っているので、それで足りると考えた」 52.9% (▲ 1.0ポイント)

「学生が希望する就職先の多くが公的機関、医療機関、幼稚園、保育園などの企業以外であるため必要がない」 29.3% (▲ 0.3ポイント)

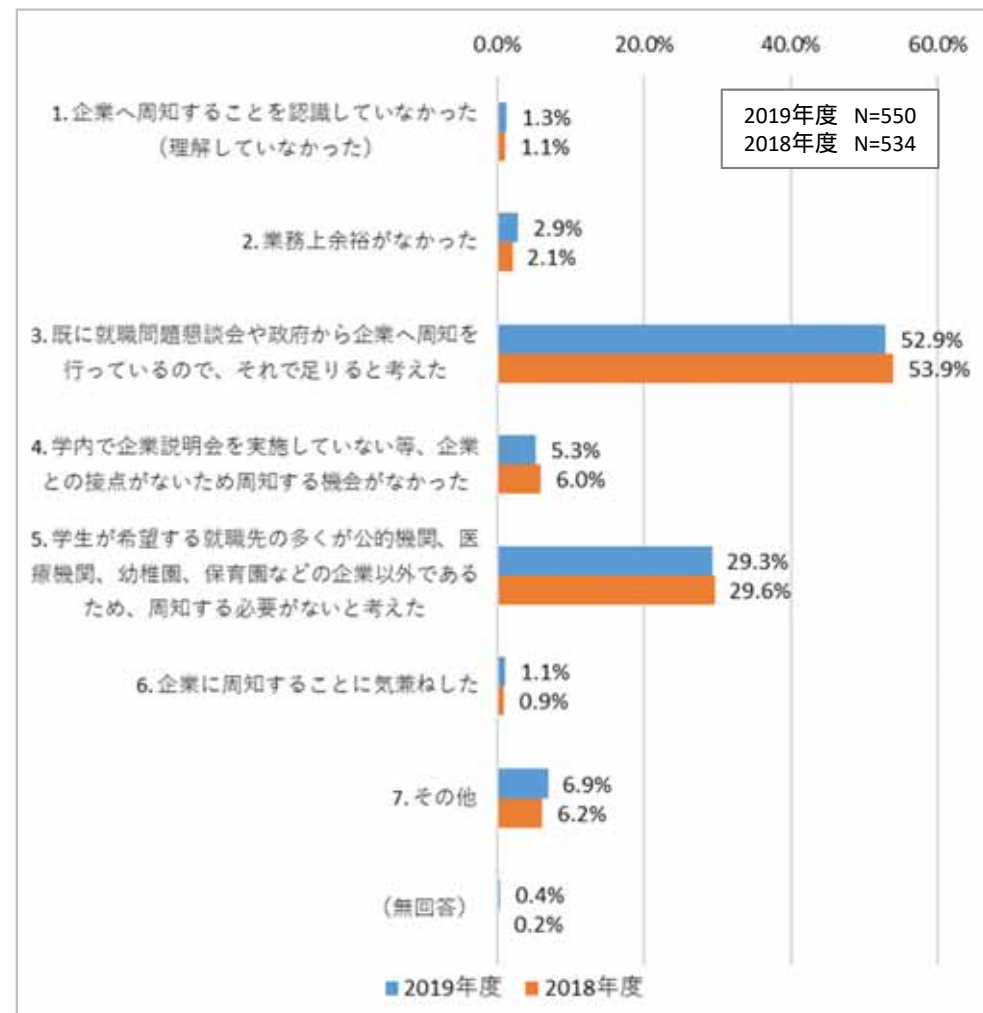
就職問題懇談会の「申合せ」の内容を企業等に対して周知しましたか
(当てはまるものを一つ選択)



【参考: 昨年度調査 (N=1,091)】

周知した49.4%、周知していない48.9%、無回答1.6%

企業に対して周知しなかった理由は何ですか (当てはまるものを一つ選択)



広報活動開始時期（大学等の認識）

< 企業が広報活動を開始した時期 >

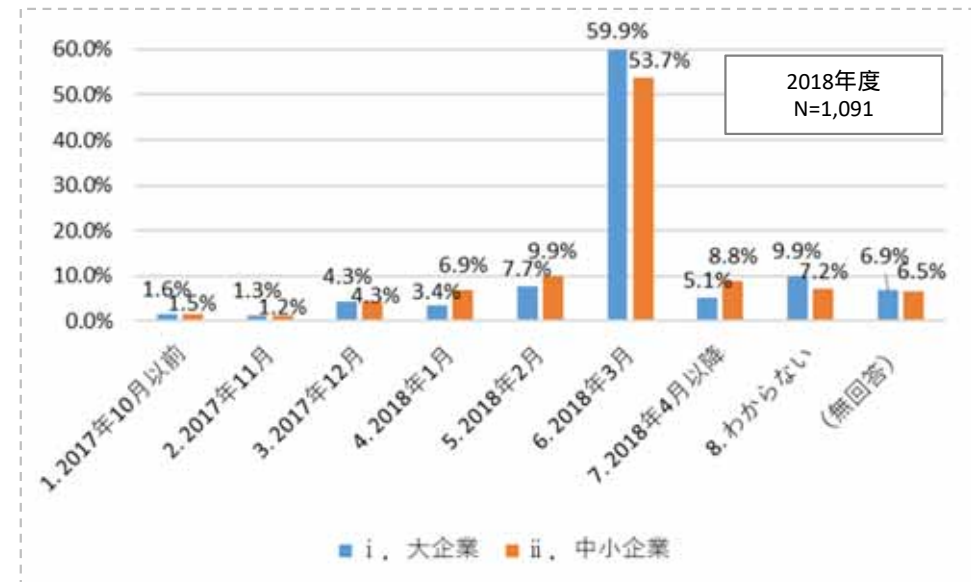
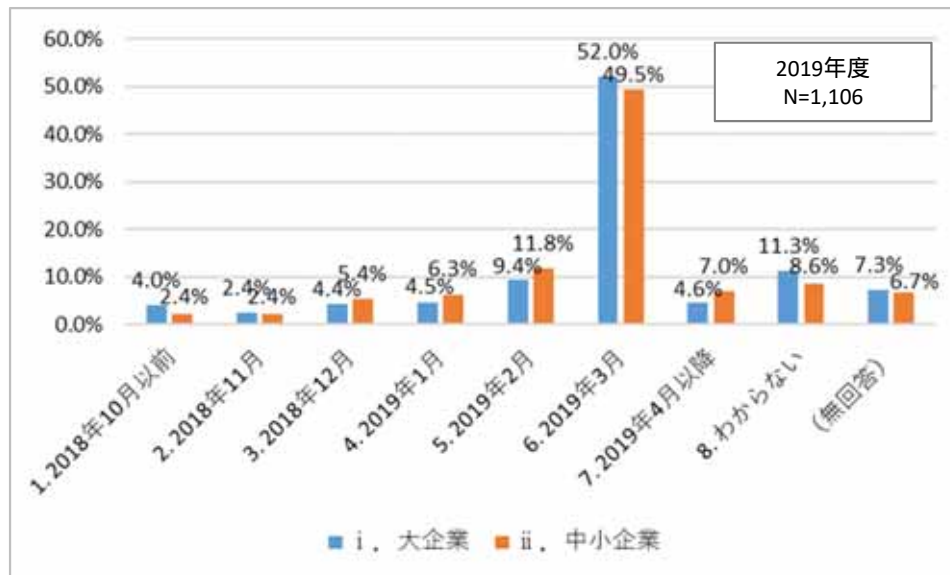
最も多い回答は、大企業「3月」52.0%（前年度比▲7.9ポイント）、

中小企業「3月」49.5%（前年度比▲4.2ポイント）

< 企業が広報活動を開始した時期が「3月以降」と回答した大学等 >

大企業 56.6%（前年度比▲8.4ポイント）、中小企業 56.5%（前年度比▲6.0ポイント）

多くの企業が広報活動を開始した時期はいつ頃でしたか（当てはまるものを一つ選択）



大学等が把握する企業の動向について回答

採用選考活動開始時期（大学等の認識）

< 企業が採用選考活動を開始した時期 >

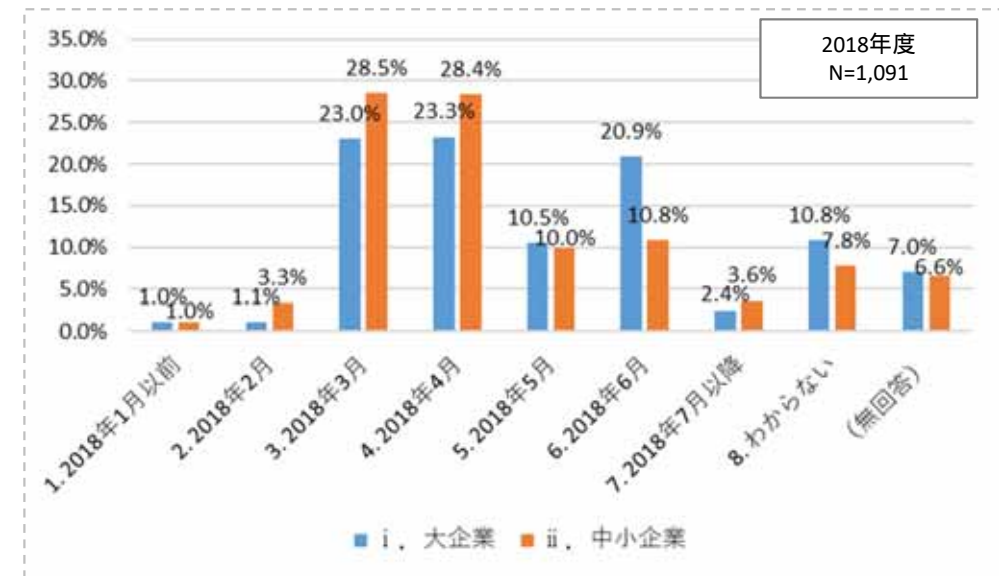
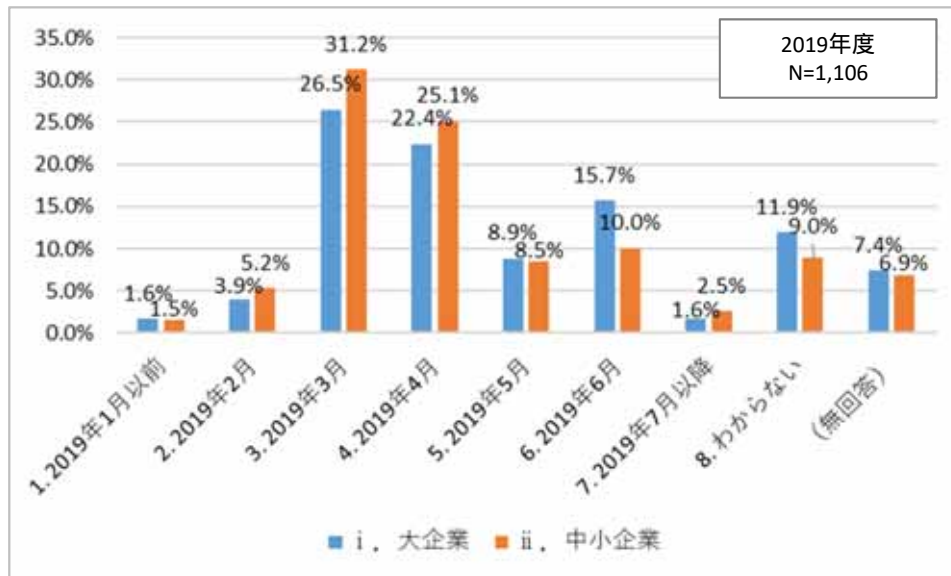
大企業「3月」26.5%（昨年度比+3.5ポイント）、「4月」22.4%（前年度比▲0.9ポイント）

中小企業「3月」31.2%（前年度比+2.7ポイント）、「4月」25.1%（前年度比▲3.3ポイント）

< 企業が採用選考活動を開始した時期が「6月以降」と回答した大学等 >

大企業17.3%（前年度比▲6.0ポイント）、中小企業12.5%（前年度比▲1.9ポイント）

多くの企業が採用選考活動を開始した時期はいつ頃でしたか（当てはまるものを一つ選択）



大学等が把握する企業の動向について回答

学生が内々定を得た時期（大学等の認識）

< 学生が内々定を得た時期 >

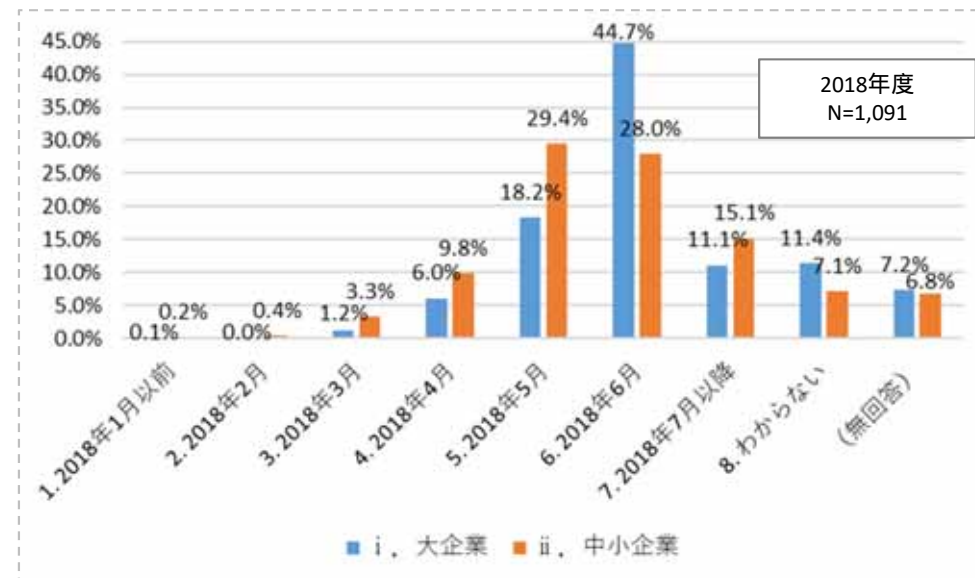
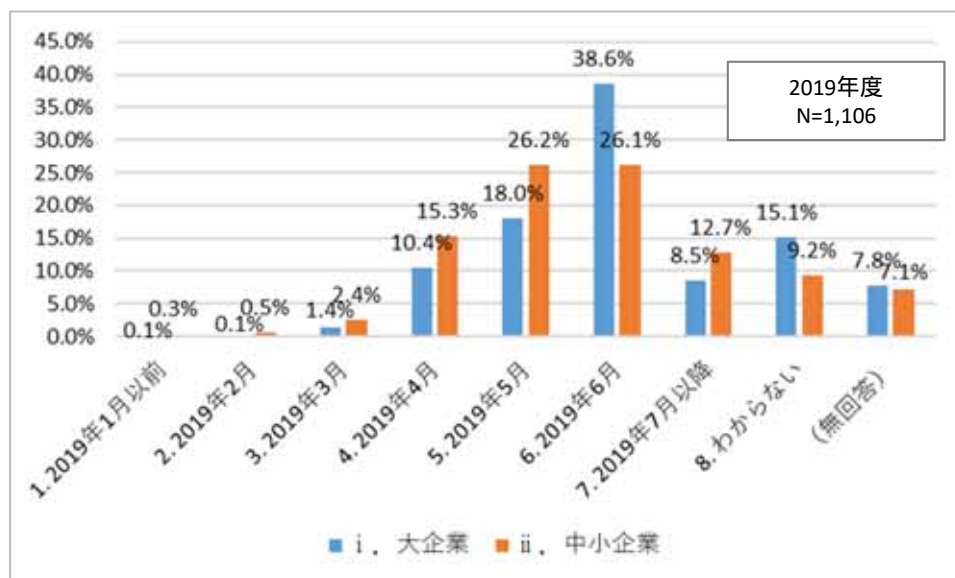
大企業の内々定「6月」38.6%（前年度比▲6.1ポイント）

中小企業の内々定「5月」26.2%（前年度比▲3.2ポイント） 6月もほぼ同じ割合。（26.1%）

< 学生が内々定を得た時期が「6月以降」と回答した大学等 >

大企業の内々定 47.1%（前年度比▲8.7ポイント）、中小企業の内々定 38.8%（前年度比▲4.3ポイント）

多くの学生が内々定を得た時期はいつ頃ですか（当てはまるものを一つ選択）



大学等が把握する企業の動向について回答

学生が就職活動を終了した時期（大学等の認識・8月1日時点）

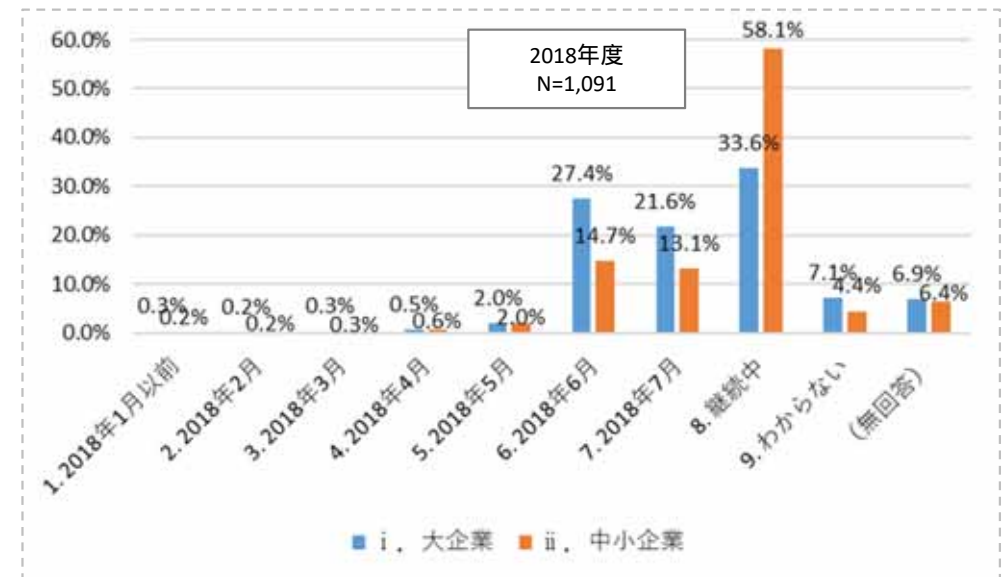
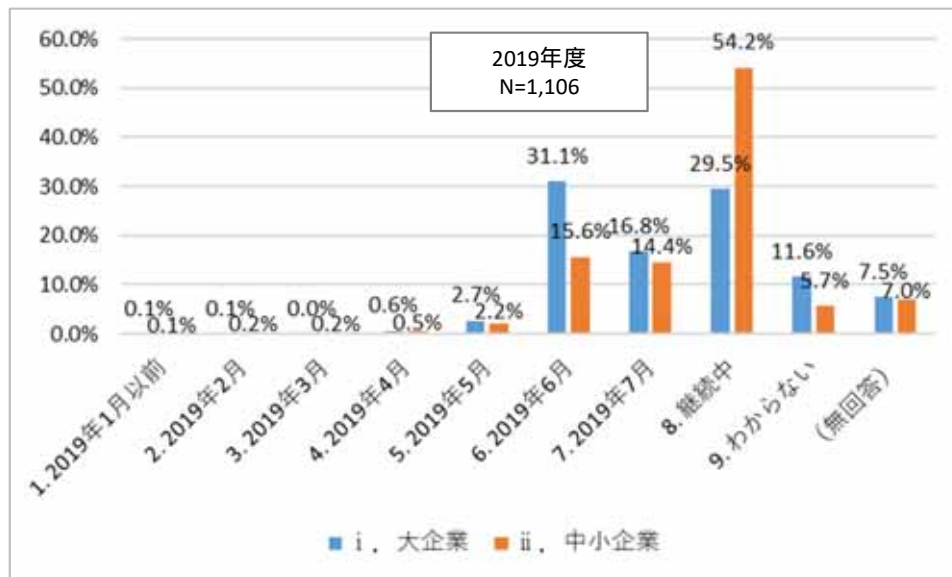
< 学生が就職活動を終了した時期 >

最も多い回答は

大企業への就職活動 「6月」31.1% (前年度比 + 3.7ポイント)

中小企業への就職活動「継続中」54.2% (前年度比 ▲ 3.9ポイント)

多くの学生が就職活動を終了した時期はいつ頃ですか（当てはまるものを一つ選択）



大学等が把握する企業の動向について回答

広報活動開始時期の維持の影響

< 良い影響があったとの回答 >

「卒業・修了前年度までの、学生の授業やゼミの学修時間の確保」29.6% (前年度比 ▲2.8ポイント)

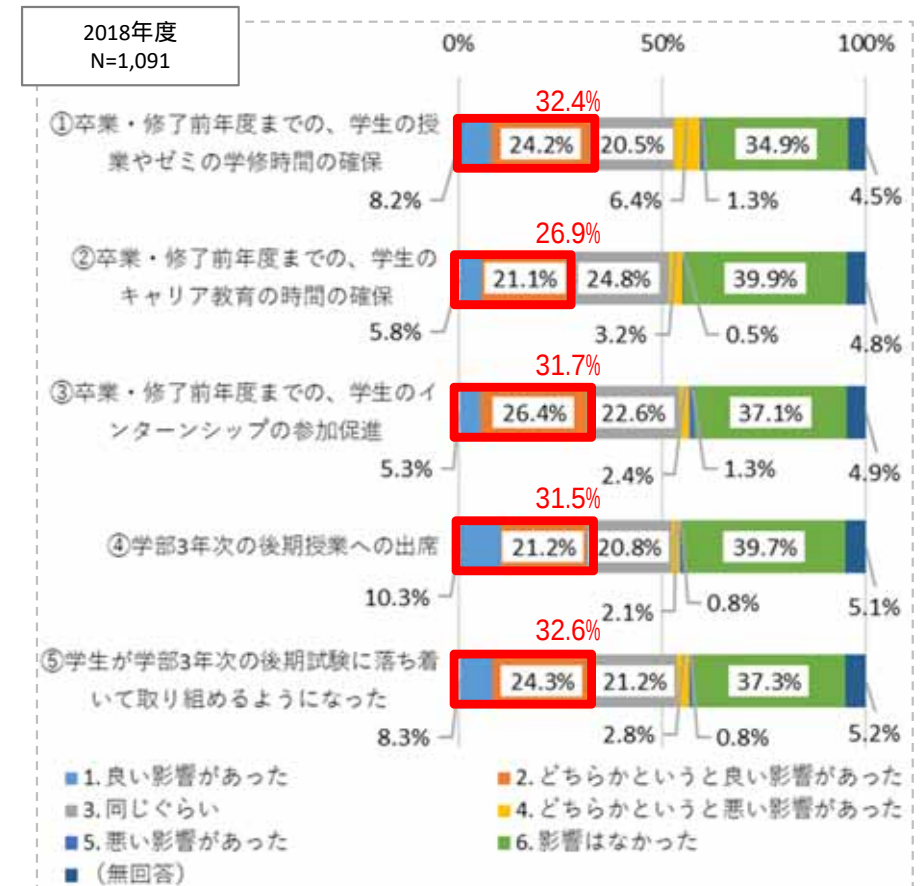
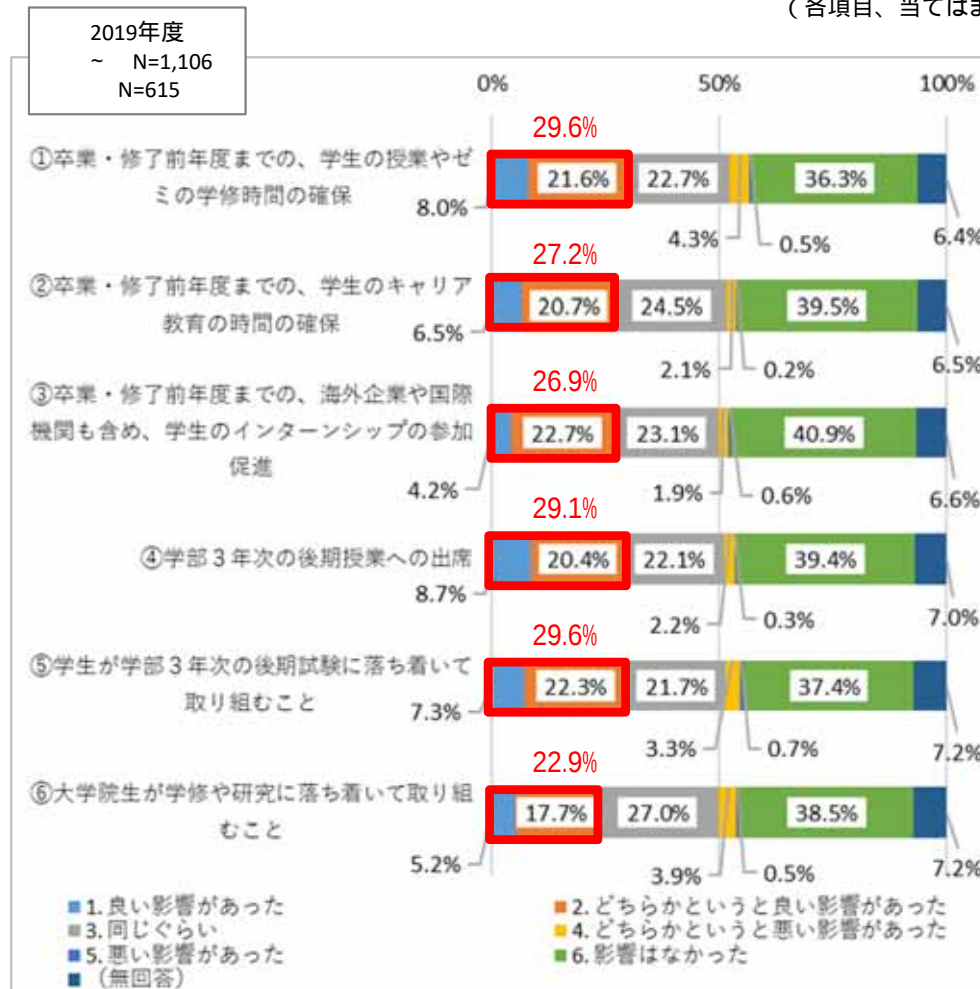
「学生が学部3年次の後期試験に落ち着いて取り組むこと」29.6% (前年度比 ▲3.0ポイント)

「学部3年次の後期授業への出席」29.1% (前年度比 ▲2.4ポイント)

昨年度同様、「良い影響があった」という回答が「悪い影響があった」という回答を大きく上回っている。

良い影響があったとは「良い影響があった」「どちらかという良い影響があった」の合計

広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降であることについて、どのような影響がありましたか
(各項目、当てはまるものを一つ選択)



就職・採用活動開始時期が同じ時期となったことについて（良い影響）

< 良い影響があったと思うこと >

「学生が就職活動の準備をしやすくなった」52.2%（前年度比+4.4ポイント）

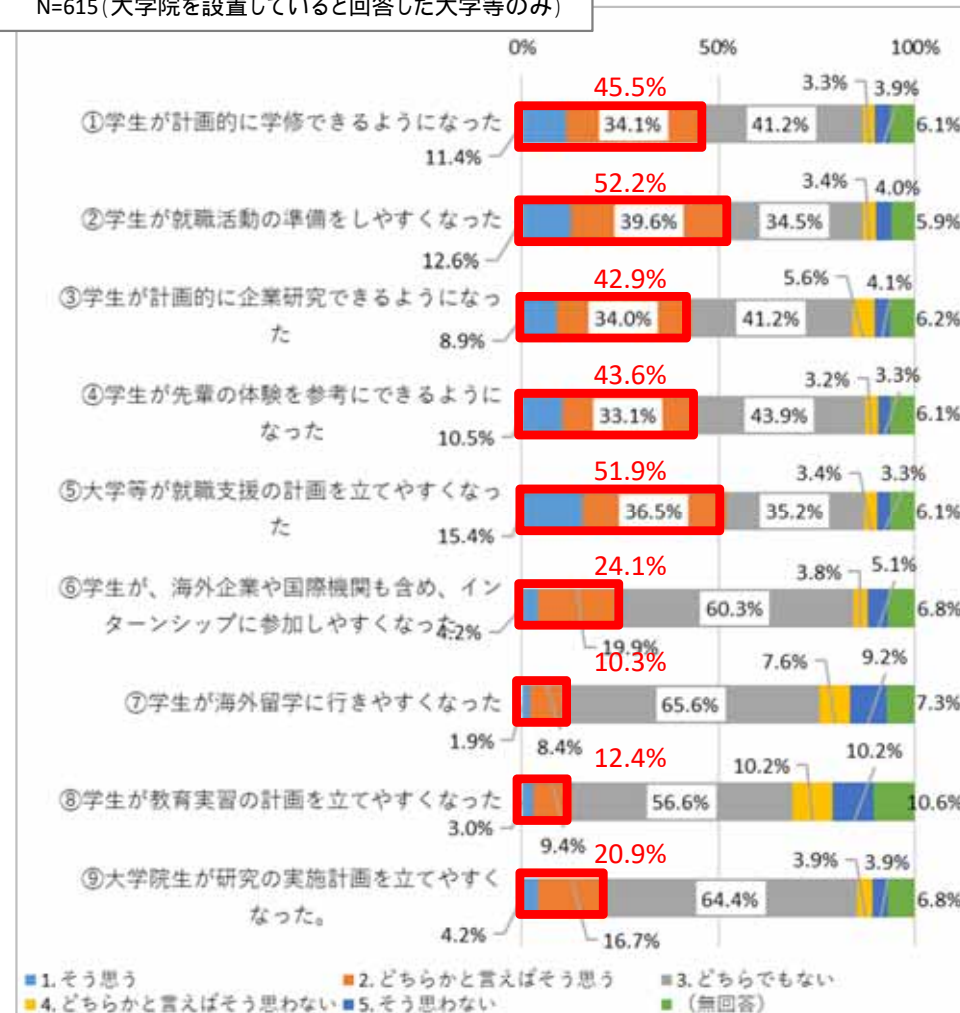
「大学等が就職支援の計画を立てやすくなった」51.9%（前年度比+5.5ポイント）

「学生が計画的に学修できるようになった」45.5%（前年度比+5.3ポイント）

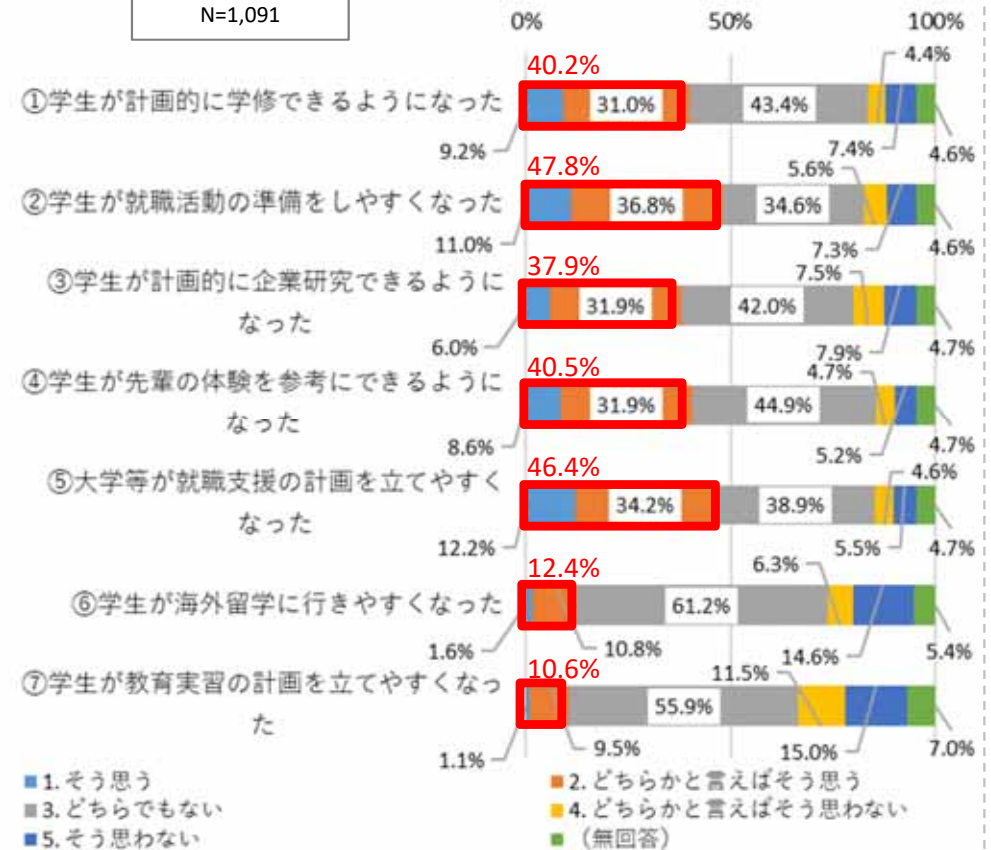
「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計。上位3つ。

就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて、良い影響があったことは何ですか（各項目、当てはまるものを一つ選択）

2019年度
～ N=1,106
N=615(大学院を設置していると回答した大学等のみ)



2018年度
N=1,091



就職・採用活動開始時期が同じ時期となったことについて（課題）

< 課題となったこと >

「実質的な選考活動を早期に開始する企業があったことで、学生の就職活動に混乱が生じた」41.0%（前年度比±0ポイント）

「教育実習を行う学生について、採用面接の時期が重なった」34.8%（前年度比▲1.5ポイント）

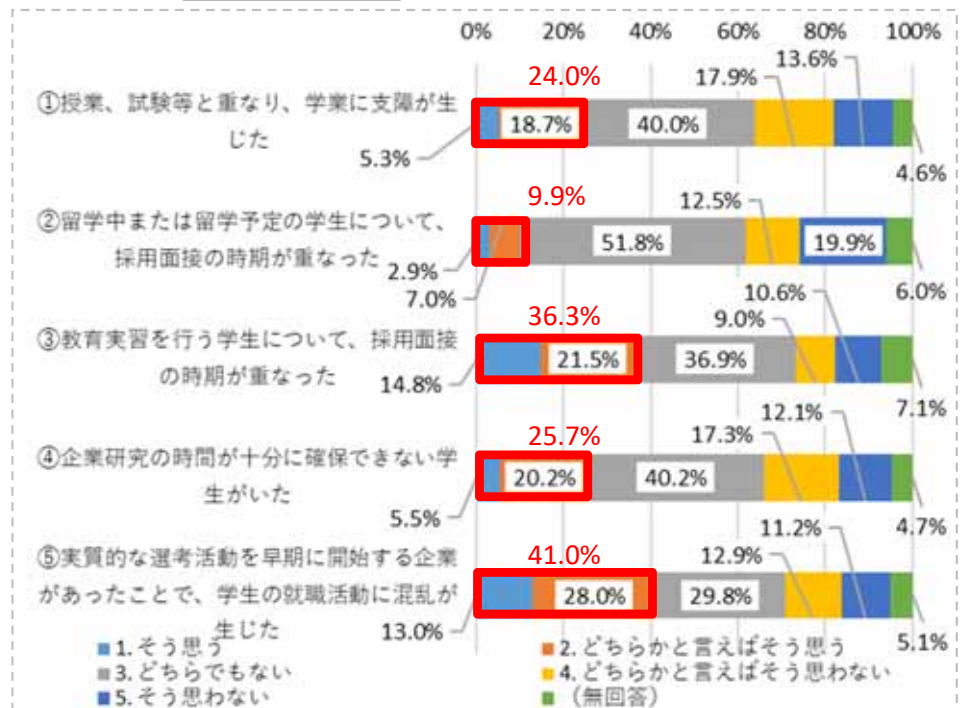
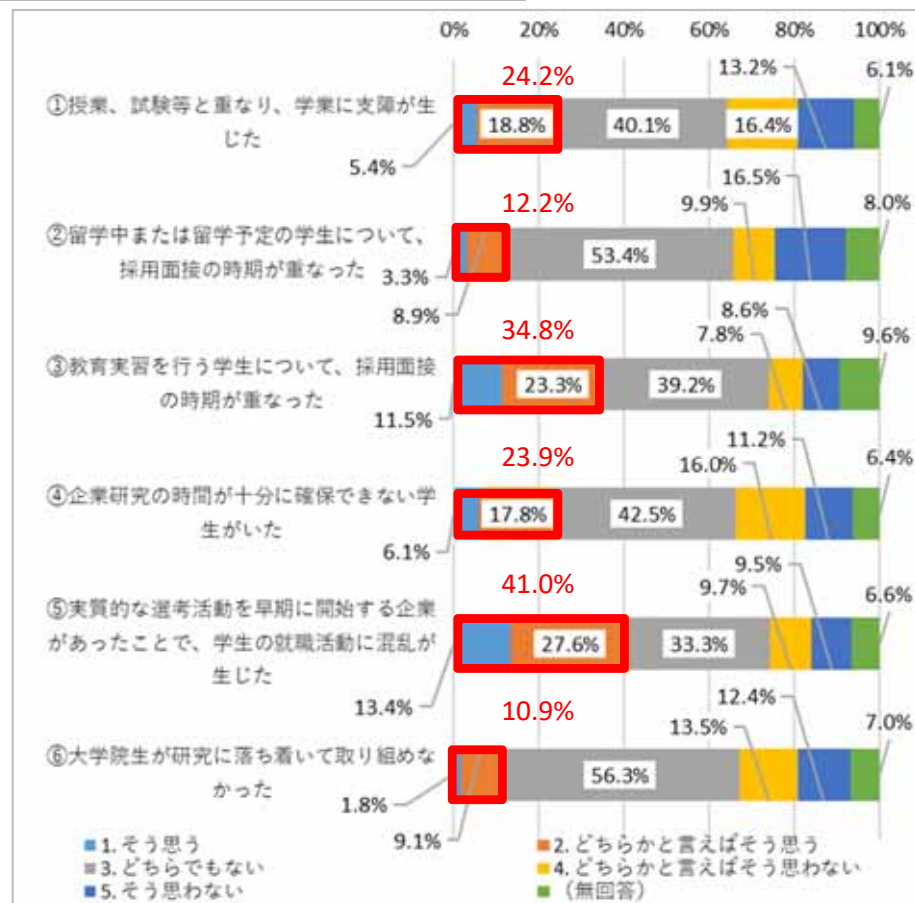
「授業、試験等と重なり、学業に支障が生じた」24.2%（前年度比+0.2ポイント）

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計、上位3つ。

就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用選考活動6月）に設定されたことについて、課題となったことは何ですか（各項目、当てはまるものを一つ選択）

2019年度
～ N=1,106
N=615(大学院を設置していると回答した大学等のみ)

2018年度
N=1,091

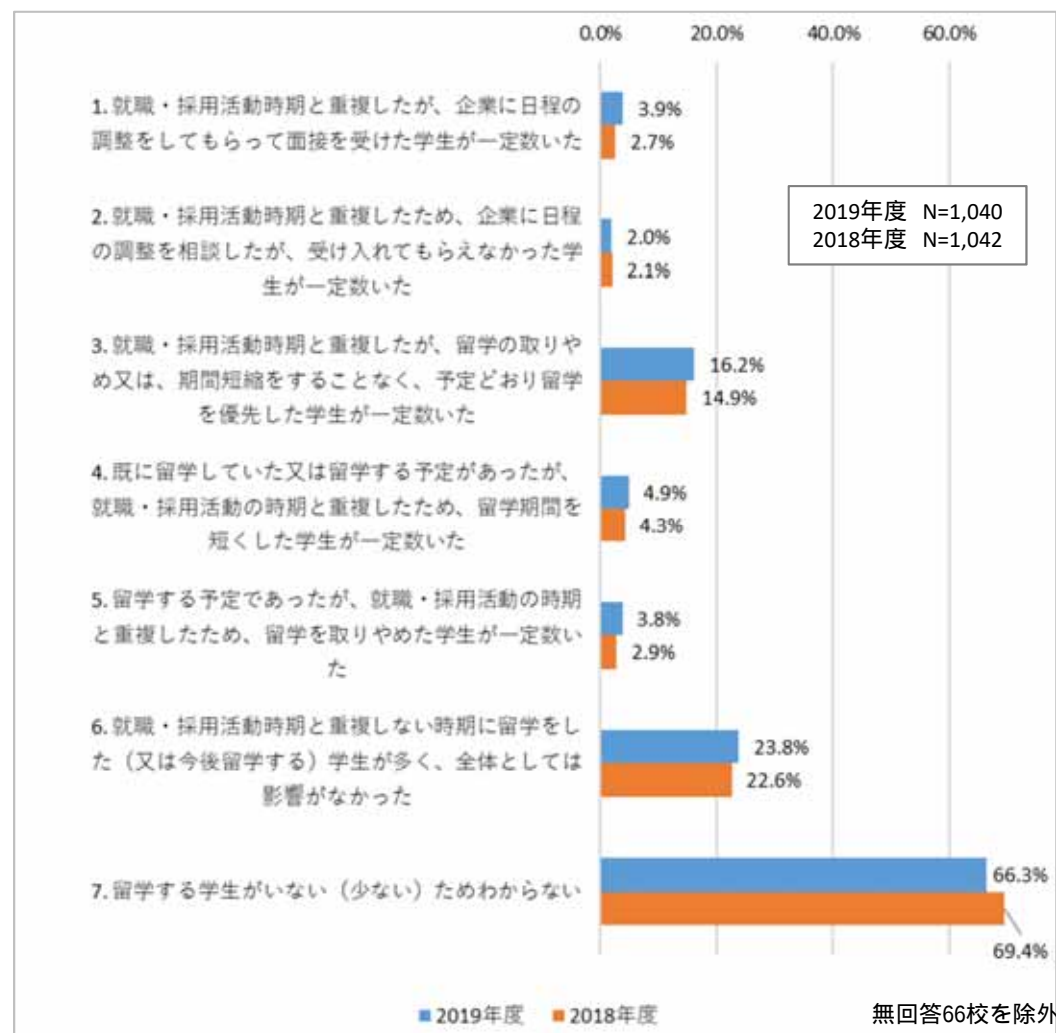


留学・教育実習への影響

<留学>

「就職・採用活動時期と重複しない時期に留学をした(又は今後留学する)学生が多く、全体としては影響がなかった」23.8% (前年度比+1.2ポイント)、「就職・採用活動時期と重複したが、留学の取りやめ又は、期間短縮をすることなく、予定どおり留学を優先した学生が一定数いた」16.2%(前年度比+1.3ポイント)

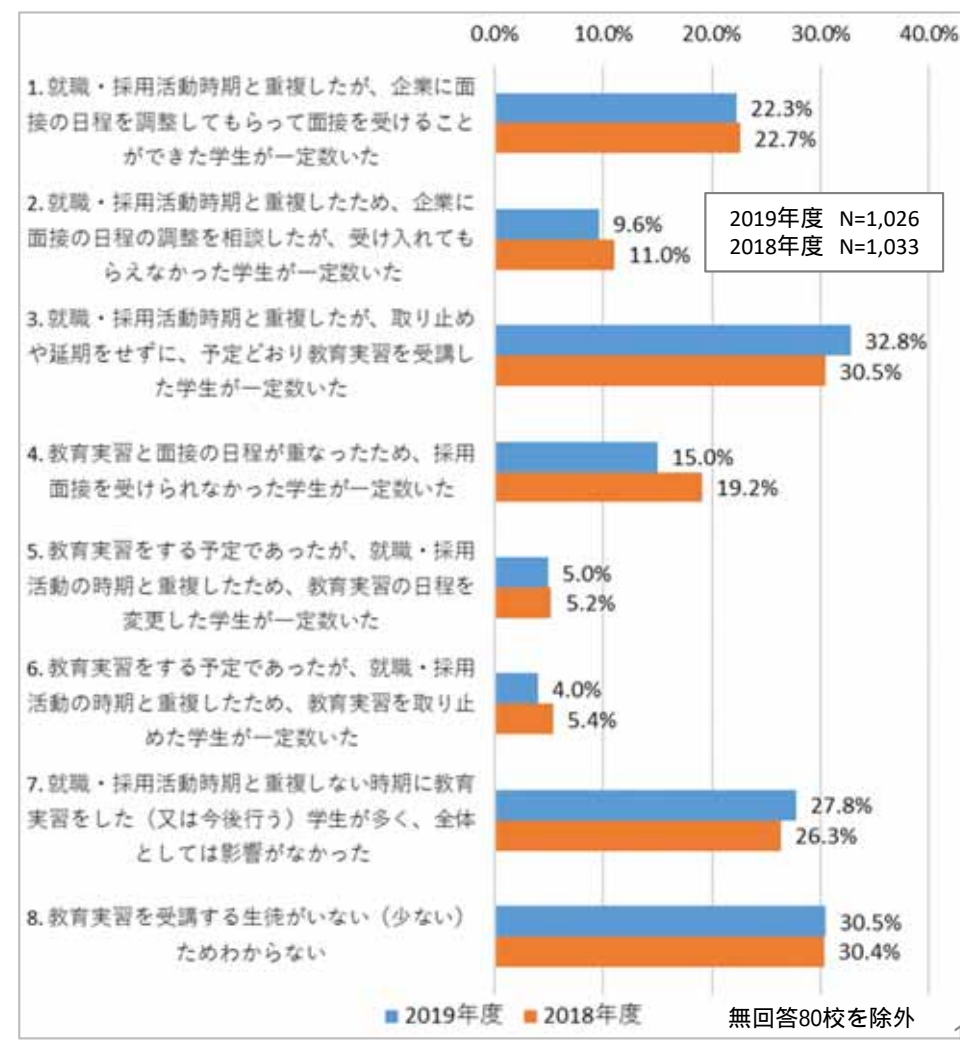
就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期、広報活動開始3月、採用選考活動開始6月に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の留学にどのような影響がありましたか(当てはまるものを最大三つまで選択)



<教育実習>

「就職・採用活動時期と重複したが、取り止めや延期をせずに、予定どおり教育実習を受講した学生が一定数いた」32.8% (前年度比+2.3ポイント)、「就職・採用活動時期と重複しない時期に教育実習をした(又は今後行う)学生が多く、全体としては影響がなかった」27.8%(前年度比+1.5ポイント)

就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期、広報活動開始3月、採用選考活動開始6月に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の教育実習にどのような影響がありましたか(当てはまるものを最大三つまで選択)

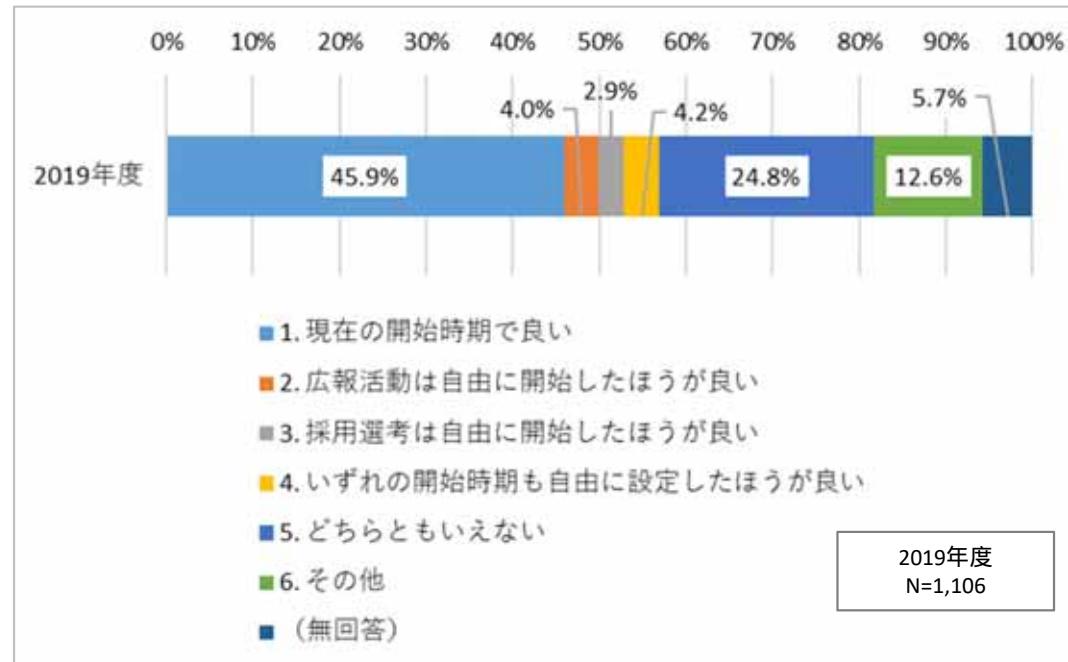


就職・採用活動の開始時期が設定されていることについて

< 就職・採用活動の開始時期が設定されていることについての考え >

「現在の開始時期で良い」	45.9%
「どちらともいえない」	24.8%
「いずれの開始時期も自由に設定したほうが良い」	4.2%
「広報活動は自由に開始したほうが良い」	4.0%
「採用選考は自由に開始したほうが良い」	2.9%

就職・採用活動の開始時期（広報活動3月、採用選考活動6月）が設定されていることについてどう考えますか（最も考えの近いものを一つ選択）



就職・採用活動における学生に対する企業の配慮

○ 配慮している > 配慮していない

「個別の面接日時等の設定に当たり、余裕をもって連絡が行われていた」など、7項目

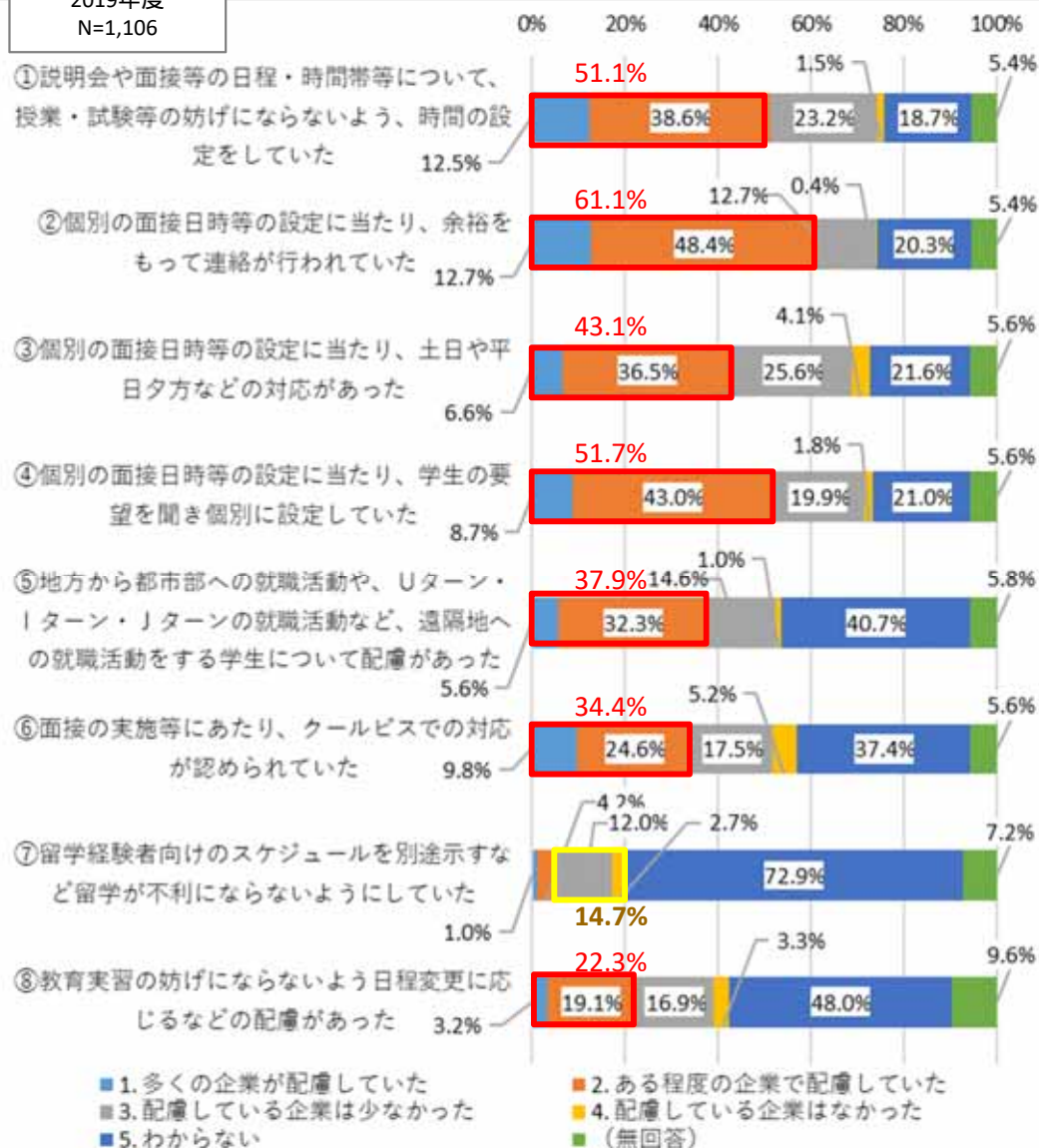
○ 配慮している < 配慮していない

「留学経験者向けのスケジュールを別途示すなど留学が不利にならないようにしていた」

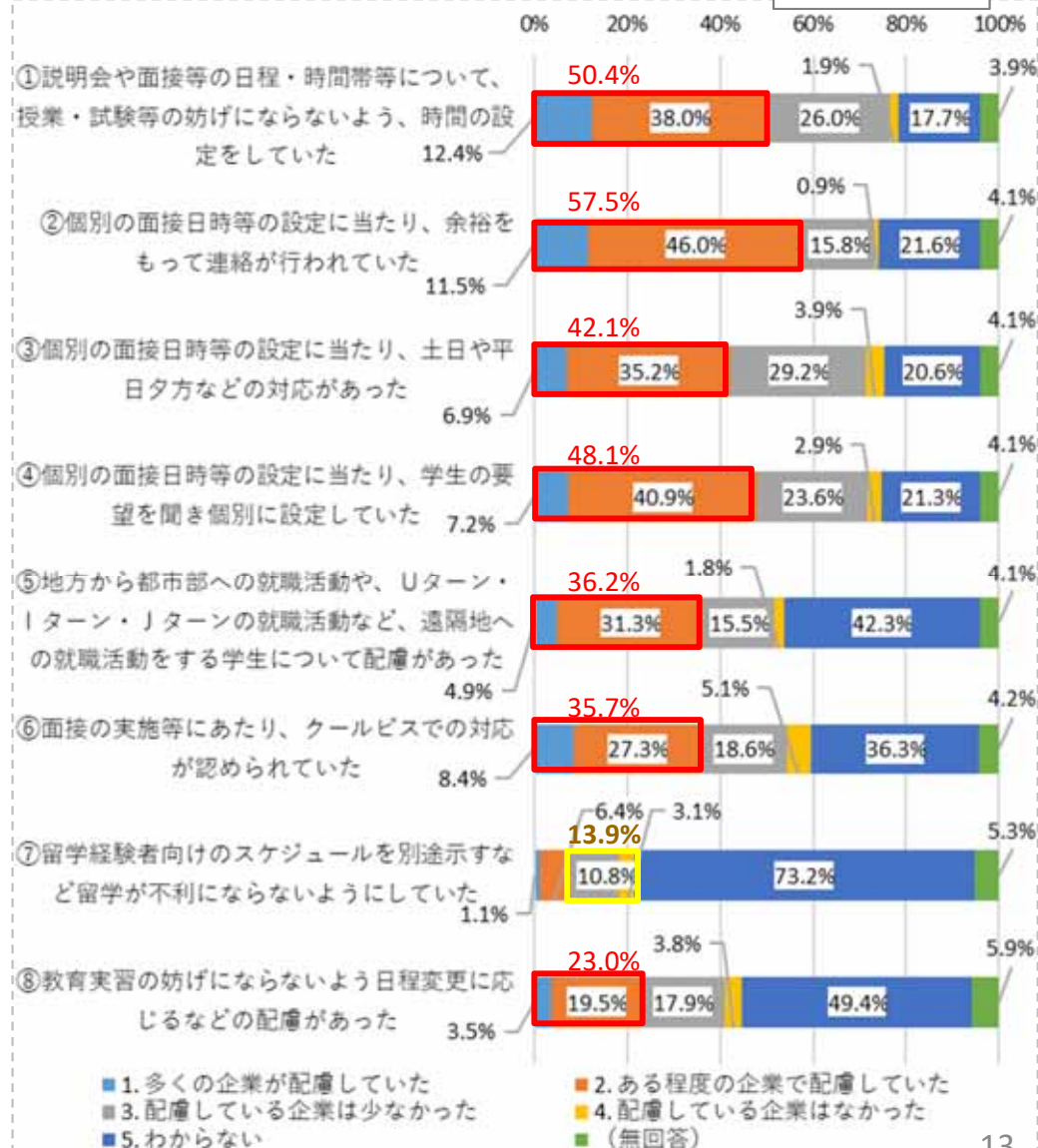
「配慮している」とは、「多くの企業で配慮していた」「ある程度の企業で配慮していた」の合計。「配慮していない」とは、「配慮していた企業は少なかった」「配慮している企業はなかった」の合計。

本年度の就職・採用活動について、企業側は学生に配慮をしていましたか（各項目当てはまるものを一つ選択）

2019年度
N=1,106



2018年度
N=1,091



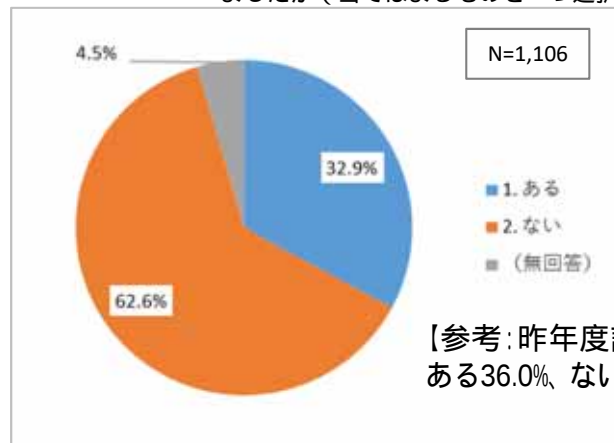
就職・採用活動におけるオワハラについて

<大学等への相談の有無> 「ある」32.9% (前年度比▲3.1ポイント)

<相談件数> 「5件以下」49.7% (前年度比+2.9ポイント)

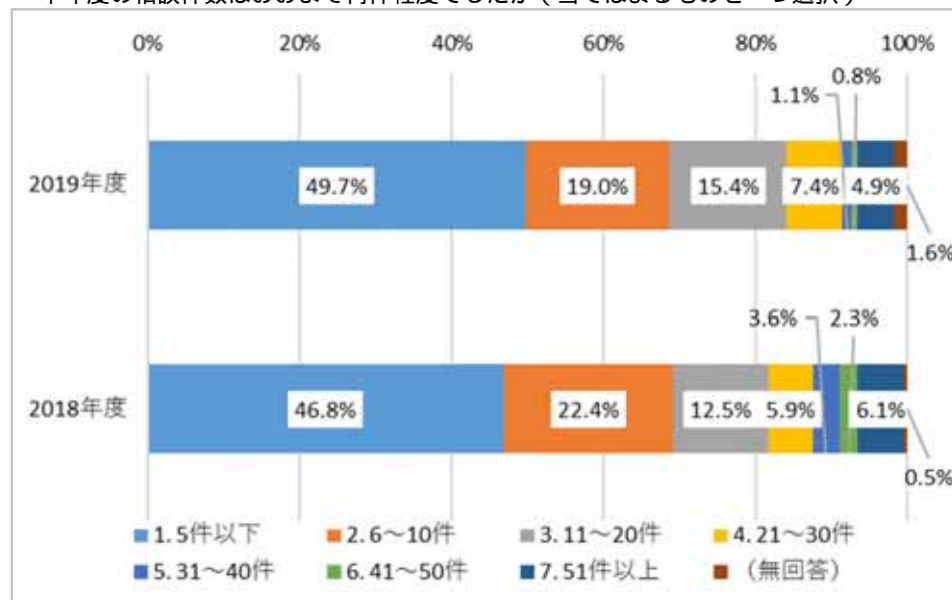
<相談内容> 「内々定の段階で内定承諾書の提出を求められた」83.2% (前年度比+1.0ポイント)

本年度の就職・採用活動において、企業から学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為（オワハラ）について、相談を受けたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）

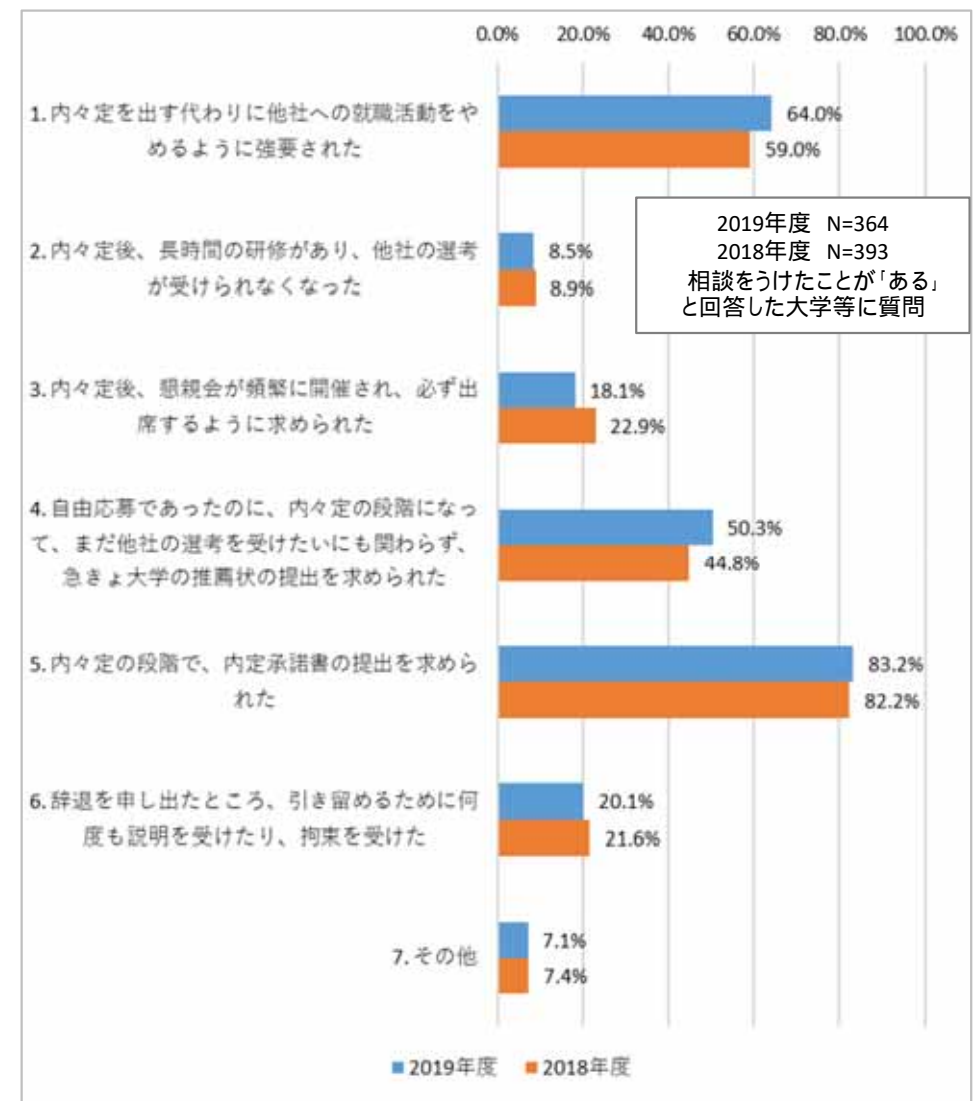


【参考: 昨年度調査 (N=1,091)】
ある36.0%、ない60.6%、無回答3.4%

本年度の相談件数はおおよそ何件程度でしたか（当てはまるものを一つ選択）



どのようなオワハラについて相談を受けましたか（当てはまるものを全て選択）



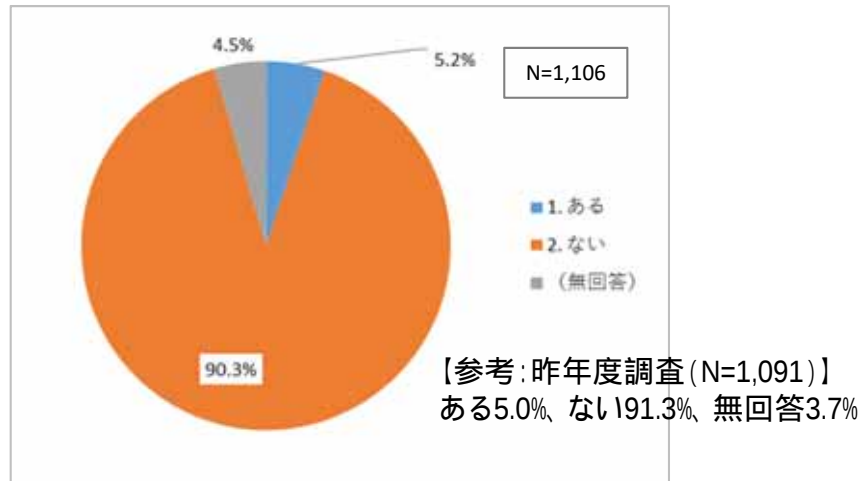
2019年度 N=364 / 2018年度 N=393 相談を受けたことが「ある」と回答した大学等に質問

就職・採用活動におけるセクハラについて

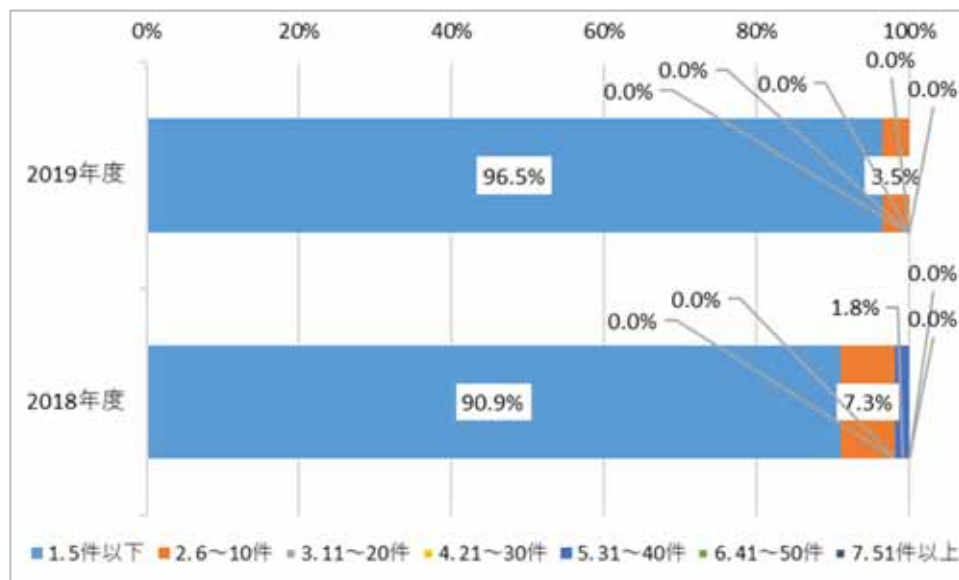
＜大学等への相談の有無＞ 「ある」5.2% (前年度比 + 0.2ポイント)

＜相談件数＞ 「5件以下」96.5% (前年度比 + 5.6ポイント)

本年度の就職・採用活動において、学生からセクシュアルハラスメントのような行為について、相談を受けたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）



本年度の相談件数はおおよそ何件程度でしたか（当てはまるものを一つ選択）



＜相談内容例＞

どのような行為について相談を受けましたか（主なものを自由記述）

- ・個人的な食事等への誘いを受けた
- ・社外での面談、社外での待ち合わせを要求された
- ・個人的内容を含む連絡を受けた
- ・個人的連絡先を聞かれた
- ・異性との交友関係について質問を受けた
- ・結婚の予定、結婚観について質問を受けた
- ・「女性なのに」などといった性差別的な質問を受けた
- ・面接で容姿に関する発言をされた
- ・体を触られた

2019年度 N=57
2018年度 N=55
相談を受けたことが「ある」と回答した大学等に質問

採用選考活動における学生の評価

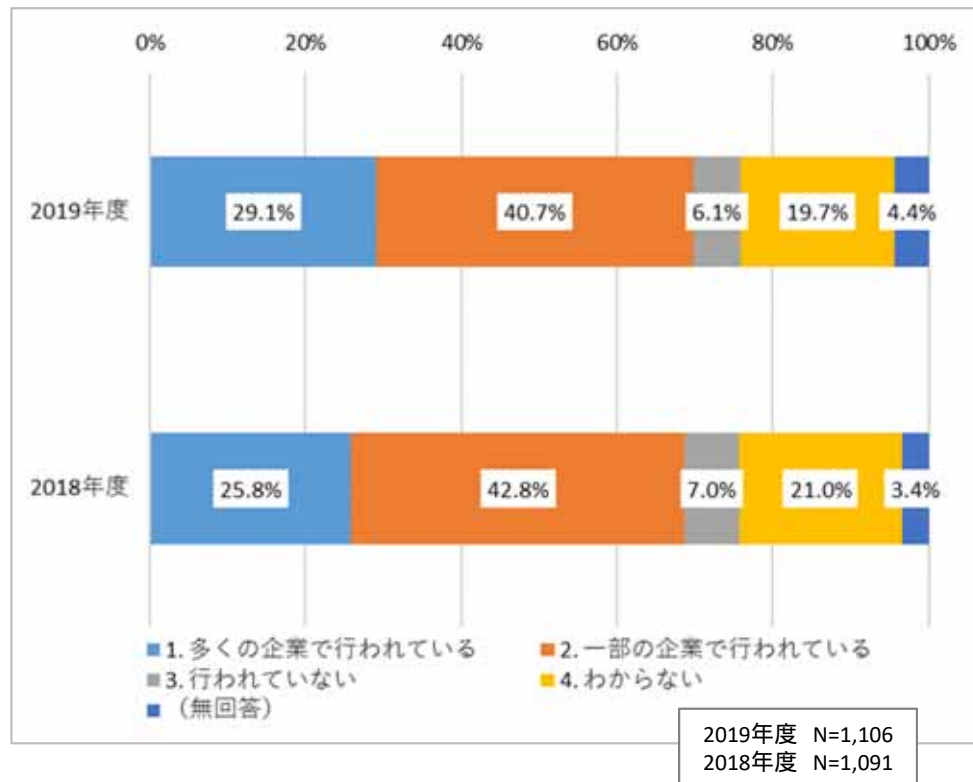
学業成果(成績や履修履歴等)が企業の採用選考活動で「重視されている」46.9%(±0ポイント)

学業成果を表す書類を活用した面接が「行われている」69.8%(+1.2ポイント)

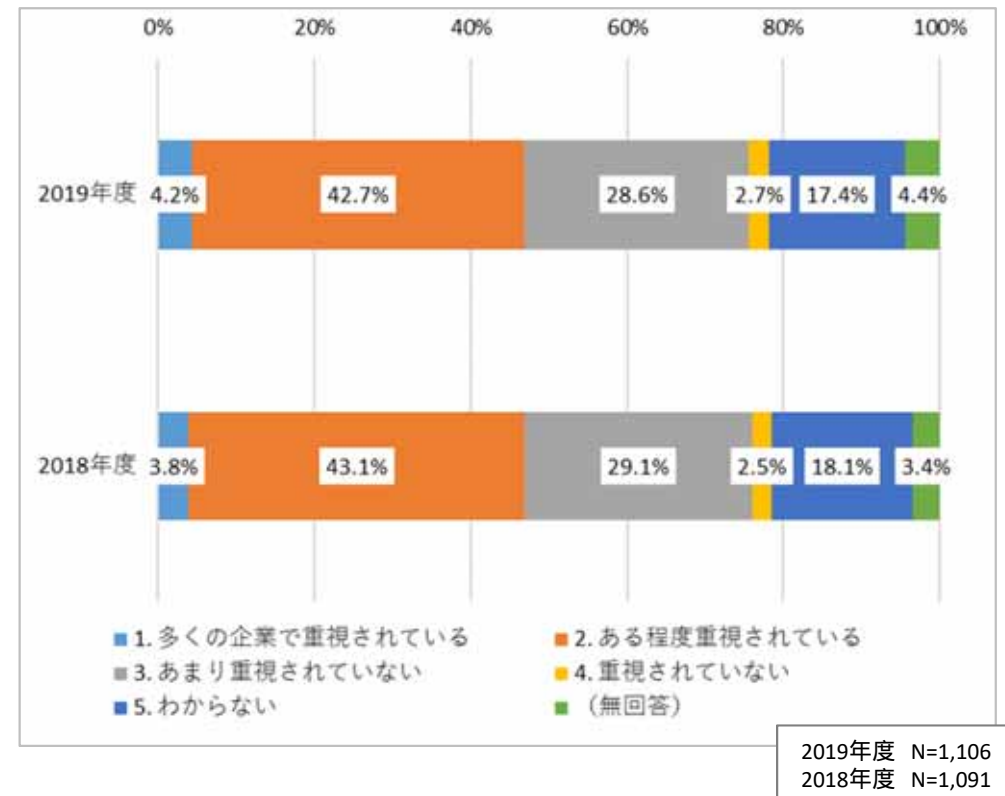
「重視されている」とは「多くの企業で重視されている」、「ある程度重視されている」の合計

「行われている」とは「多くの企業で行われている」、「一部の企業で行われている」の合計

学業成果を表す書類(例えば、成績証明書や履修履歴等)などを活用した面接が行われていると思いますか(当てはまるものを一つ選択)



企業の採用選考活動において、学生を評価する際に大学における学業成果(成績や履修履歴等)が重視されていると思いますか(当てはまるものを一つ選択)



インターンシップについて

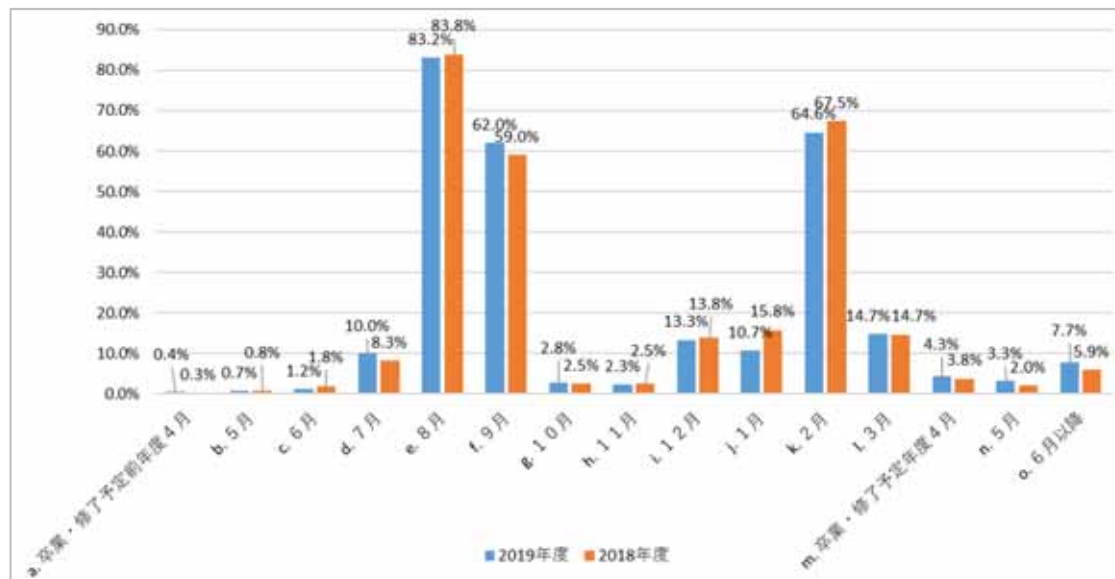
<インターンシップ参加時期>

大学側の認識では、8月が最も多く(83.2%(前年度比▲0.6ポイント))、次いで「2月」が多い(64.6%(前年度比▲2.9ポイント))。

<インターンシップについての認識>

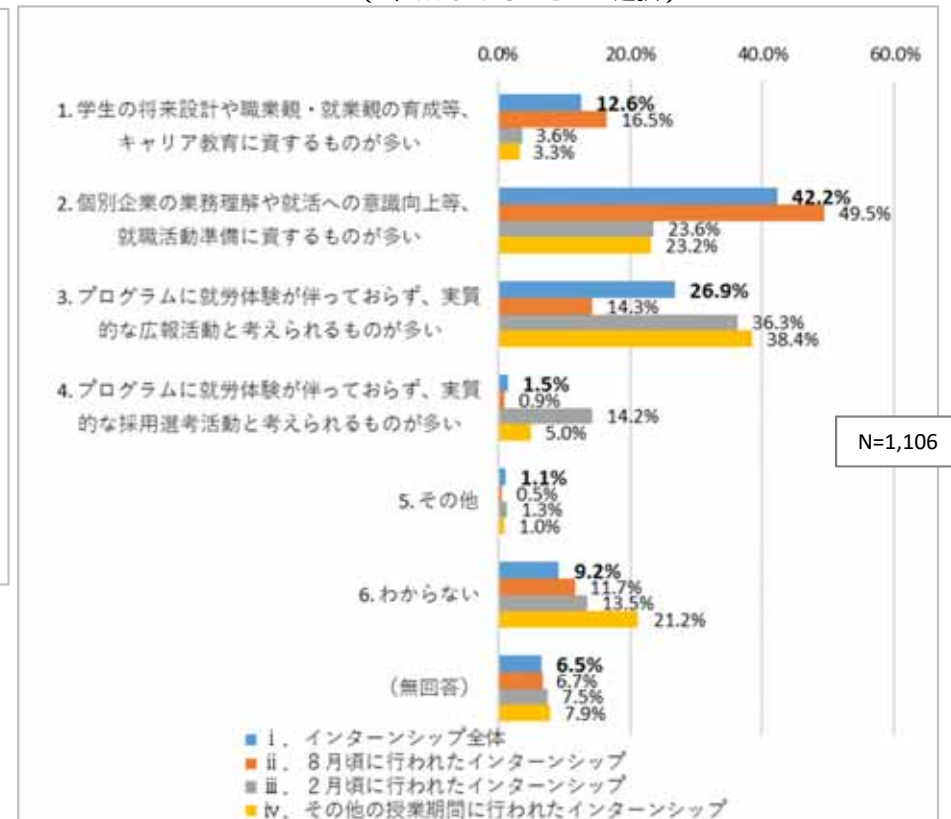
- ・8月に実施されるインターンシップについては就活準備に資するものが多いとの認識(49.5%)。
- ・2月に実施されるインターンシップについては実質的な広報活動と考えられるものが多いとの認識(36.3%)

学生が企業のインターンシップに参加した時期はいつですか(参加の多い順に三つ選択)



2019年度 N=938 無回答の168校を除外
2018年度 N=905 無回答の186校を除外

企業のインターンシップについて、どのような認識をお持ちですか(当てはまるものを一つ選択)



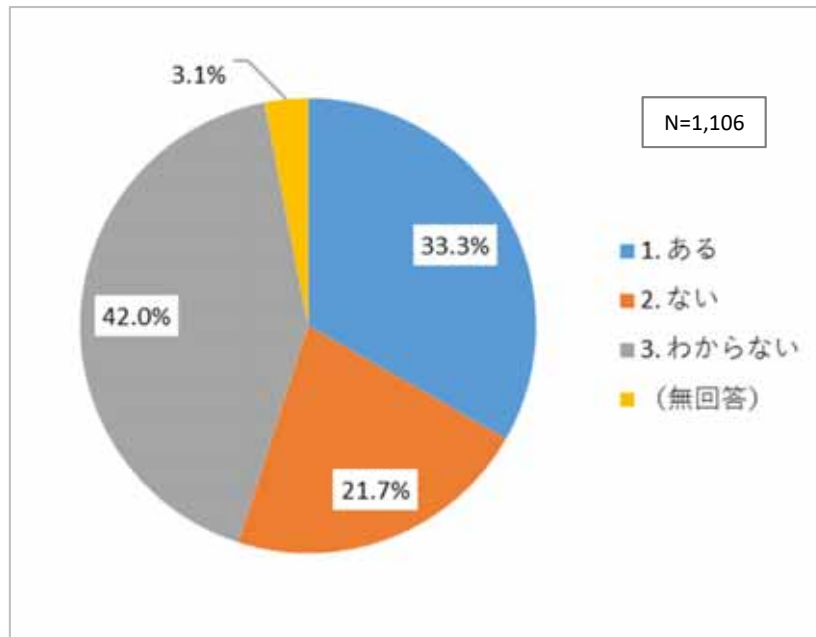
N=1,106

<オリンピック・パラリンピック>

就職活動にとって不安や課題と考えることは「ある」33.3% (前年度比 + 9.1ポイント)

就職活動にとって不安や課題と考えることは「ない」21.7% (前年度比 ▲ 3.0ポイント)、

2020年度の就職・採用活動は、オリンピック・パラリンピック大会期間と就職・採用活動時期が重なりますが、就職活動にとって不安や課題と考えることはありますか
(当てはまるものを一つ選択)



【参考:昨年度調査(N=1,091)】

ある24.2%、ない24.7%、わからない48.3%、無回答2.7%

<不安や課題の例>

不安や課題と考えることについて、具体的な内容をご記入ください(自由記述)

- ・企業の採用活動の早期化
- ・企業の採用活動の短期化、時期集中
- ・交通手段の確保が困難になる、学生の費用負担が増える
- ・宿泊施設の確保が困難になる、学生の費用負担が増える
- ・就職活動時期が大会ボランティア期間と重複する
- ・インターンシップの機会減少